

海の環境とウミガメの命を先頭に立って守り抜く 18 人の立役者

環境大臣賞 鹿児島県 南九州市立松ヶ浦小学校

薩摩半島南部の東シナ海に面した白浜は、毎年ウミガメが産卵する場所として知られている。そのウミガメが「いつまでも安心して帰ってこられるように」との思いをスローガンに掲げ、同校ではさまざまな環境美化活動に取り組む。2009 年から開始したのが、校区内にある松ヶ浦の海岸の漂着ごみ回収と分類調査。指宿海上保安署や知覧町ウミガメ保護研究会と連携しながら、分別した漂着ごみを計量して過去のデータと比較し、問題を深く掘り下げて実施しているのが特徴である。

もともと住民同士のつながりが強く、環境意識が高い地域で、数十年前から児童や住民を始め、市や団体も参加する数百人規模の海岸クリーン作戦を実施。きっかけは、きれいな砂浜を維持できなければウミガメが産卵に来なくなる危機感を抱いたことからだった。

そうした住民の切実な望みを目の当たりにしている児童は、団体と協力しながら、ウミガメの卵の保護・移設、孵化・放流までの保護活動を 1994 年に開始した。卵が無事に孵化するように、安全な孵化場に移設した後、毎日 2 回、土の温度を測り、孵化に最適な温度を保つために、暑いときは水をかけて冷やしながら懸命に世話をする。孵化した子ガメを放流するときには、市内外から訪れる見学者に向けて、ウミガメ放流会を開催。児童自らウミガメガイドを務め、ウミガメの生命や漂着ごみを減らす大切さを訴える。これらの取り組みは、総合的な学習だけではなく、道徳や国語、図工など教科の枠を超えた教育活動として展開。

知覧町ウミガメ保護研究会の坂元育男会長は、「我々が中心になって活動してきたことが、だんだん児童が先頭に立って保護に取り組むようになり、理想の姿になりつつあることがうれしい」と評価する。

現在全児童数 18 名と少子化が顕著になっているが、代々受け継いできた松ヶ浦の命を育む美しい海や砂浜を守り抜くという児童の熱意と夢は、彼方に大きく広がっている。

鹿児島県南九州市立松ヶ浦（まつがうら）小学校

学校長：池田 正清（いけだ まさきよ）

児童数：18 名(2018 年 11 月末現在)

住所：鹿児島県南九州市知覧町南別府 24941 番地

電話：0993-86-2004

アクセス：JR「松ヶ浦」駅から徒歩数分



写真上：分別した漂着ごみを計量する様子、上から 2 番目左：ウミガメの卵を保護する児童、右：無事に孵化した子ガメたち、上から 3 番目：海の環境や命の大切さを訴えるウミガメガイド、下：放流後、海に向かう子ガメを見守る